

心を豊かにする音楽科

< 第11回講座 >

- *日時 : 2021年12月3日(金) 9:50~11:50
- *テーマ : 「箏曲の魅力～実演を交えて」
- *講師 : 片岡 リサ 氏
- *共演者 : 安田 知博 氏
- *演奏曲
 1. 六段の調 (八橋検校作曲)
 2. 夕顔 (菊岡検校作曲)
 3. 春の海 (宮城道雄作曲)
 4. 祭の太鼓 (宮城道雄作曲)
 5. せきれい (宮城道雄作曲 北原白秋作詞)

日本のお正月には欠かせない箏の調べを、一足早く聴かせていただきました。まず「箏」と「琴」の違いについて、「箏」は十三弦、「琴」は七弦で共に中国から伝わりましたが、七弦琴は平安時代に廃れてしまい日本では「箏」のみが残ったそうです。

ところが「箏」の字が常用漢字にない為「琴」の字が使われるようになったとの事です。

箏の構造を詳しく説明してくださり、琴の裏側に穴が開けられており、その形や演奏時の座り方によって流派(生田流、山田流)が異なることを知りました。



初級の総仕上げでもある「六段の調」はよく耳にする代表的な曲ですが、片岡先生の演奏は力強くしかもものびやかで引き込まれました。三味線を弾きながら歌う地歌で「夕顔」を弾き歌いされたのには驚きました。

後半は有名な箏曲家、宮城道雄に関する解説の後、いよいよ「春の海」の演奏となりましたが、ここでサプライズ！ 次回の講師、安田知博先生が登場し、尺八のメロディーと箏の伴奏で本格的な演奏を聴かせていただきました。わずか2回の音合わせ（実は事前に下合わせをして下さっていました）にも関わらず息はぴったり、迫力満点、さすがプロの演奏に魅了されました。



「祭の太鼓」では箏とは思えないテクニックで太鼓を、また最後の「せきれい」では鳥のさえずりを上手く表現しており、箏の奥深さを実感しました。片岡先生のソプラノは美しく多才に感服しながら、来年お正月のコンサートが楽しみになりました。八橋検校と葉子の八つ橋の由来は面白く、きっと長く記憶に残ることでしょう。

